

春岡村の伝説

戦争の記憶 その2

《見沼区堀崎の民家に日本の戦闘機が墜落》

戦争末期の昭和20年4月12日、15機のB29が埼玉に襲来しました。

春里中学校近くの松本氏（昭和2年生まれ当時18歳）は自宅の縁側で昼寝をしていましたが、ドーンという衝撃で縁側から庭に転がり落ちてしまいました。B29を迎え撃った日本の戦闘機が見沼区役所の近く、堀崎の飯島家に墜落したのです。空中戦でやられた日本軍の戦闘機は火だるまとなって落下し、飯島家の母屋などが全焼しました。大和田駅近くの柳沢さん（昭和7年生まれ 当時国民学校の六年生）は現場に見に行きましたが、時限爆弾が積んである、と言うのであわてて家に逃げ帰ったそうです。

B29はそのまま太平洋上へ飛んでいきましたが、その際、片柳村東新井の畑に1発、御蔵へ3発の1トン爆弾を投下していきました。御蔵に投下されたうちの1発が爆発し、防空壕にいた子供3人が犠牲となりました。

その後、昭和51年に不発弾3発を掘り出しましたが、それには白いペンキでこんなことが書かれていました。

IF YOU'VE HEARD THIS ONE,
IT'LL KILL YOU.
(訳：爆弾の音を聞いたら最後、おだぶつだぞ)

(この日、大宮、浦和、北足立郡、入間郡に空襲があり、死者36名、翌13日にも川口、大宮、蕨に空襲があり死者12名) (参考『大宮市史4』)

*春野図書館で昭和16年12月8日開戦前後の読賣新聞の実物を展示しています。
10月2日まで

(平山由喜)

